

埼玉県推奨図書



中学生向け

バンピー



いとうみく／著
静山社

高校生の成は、小学生の三姉妹と四人暮らし。母は亡くなり、父は行方不明。ある日、成に「妹が万引きした」と連絡が入り、迎えに行くとそこには知らない女子高生が。その子は「腹違いの妹」だと言い…!?紆余曲折ありながら、最後は前向きになれる一冊。

僕らが学校に行く理由



渋谷敦志／写真・文
ポプラ社

紛争、貧困、災害など様々な理由で学校に通えない子どもたち。学びたくても学べない子や、学べる喜びにあふれる子らを撮った写真から、彼らの生活をリアルに感じ取ることができます。「僕たちはなぜ学校に行くのか」その答えを考え直すきっかけになる本です。

彼の名はウォルター



エミリー・ロッド／著
さくまゆみこ／訳
あすなる書房

遠足の途中でバスが故障し、誰もいない古い屋敷に避難したコリンたちは、書き物机の中に大きな本を見つけた。書名は「彼の名はウォルター」。その本を読みすすめると、彼らは何かの気配を感じはじめ…物語と現実が交差し明かされる、本にこめられた真実。

いっしょにいるよ

子どもと裁判に出た犬フランとハッシュの物語



涌井学／著
NPO法人子ども支援
センターつなぐ／原案
小学館

虐待などの被害を受けた子どもたちは、裁判でそれを証言しなければならない。そんな時、そばにいて安らぎを与えてくれるのが「付添犬」。付添犬が子どもと裁判に出ることが認められるまでの人々の努力を、実話をもとに描く。

バスを降りたら



真島めいり／著
PHP研究所

志望していた中学校に落ち、第一志望でなかった私立中学校に通う律。そして律が行きたかった学校に通う奈鶴。二人は毎朝同じバスに乗っている。ストーリーは互いを意識しながら、それぞれの視点で展開していく。二人の変化に心温まる物語。

今の自分の場所に不満をもつ「律」と、彼が気になる「奈鶴」。そんな「奈鶴」にも現状に対して『大きな問い』がありました。二人は毎朝同じバスで中学に向かい、それぞれの物語はバスの中だけで交差します。問題に向き合う二人の心の変化と成長が心に残る一冊です。同じ中学生ということもあり、読了後は自分も成長できたかのように感じました。

越谷市立東中学校
3年生

